Ⅱ　向上訓練コース開発の経緯

前年度において基本材料が開発されたので、最終年度である平成3年度においては、以下のとおり「指導マニュアル」、「補助教材」を開発し、受講生の募集からコース試行、アンケート調査の実施と分析・検討等を行った。

1　「開発委員会」と「コース開発部会」

開発委員会は、コース開発の外枠を審議し、その実務を担当するコース開発部会に助言・指示を与える関係である。構成は以下のとおりである。

所　　属	氏　　名		開発委員会	コース開発部会
君津技能開発センター	委員	木下征男	○	○
		藤井光明	○	○
		宇良田慎二	○	○
		瀧原祥夫	○	○
		菊地吉晴	○	
職業訓練研修研究センター	委員	熊谷茂雄	○	
		岸本隆臣	○	○
		高橋辰栄	○	○

(1)　開発委員会における検討内容

開発委員会において取り上げた議題は以下のとおりである。

①　研究の概要と経緯

調査研究報告書第53号に基づいて検討、確認をする。

②　今後の進め方

開発委員会で全体の方針を討議し、その実務を「コース開発部会」に委ねる。

③　コース開発部会への提言

A　開発コースの内容について

B　開発するマニュアル等について

C　募集について

D　アンケートについて

E　施設訪問について

F　その他

(2)　コース開発部会における検討内容

コース開発部会において取り上げた議題は以下のとおりである。

①　コース開発の内容について

対象者：40〜50才台を中心とする。

内容・目標：調査研究報告書第53号に基づく。

時期・期間等：1月下旬〜2月上旬を予定。2回。昼間4日間。30時間。キーボード操作はロータスを用いて行う。

定員：各回10人。

受講料：3,000〜4,000円

教具等：Lotus 1-2-3 V.2.3J　10セット、キーボード。

②　開発するマニュアル等について

指導マニュアル：A4、100ページ

補助教材：A4、80ページ、課題・解答例。

ビデオ教材等：既存のものがあるが、画像が不鮮明で判読が困難。キーボード操作について説明した内容のもの（20分程度）が2本程度欲しい。12月に収録できないか。

③　募集について

パンフレット：自作することとし、特に費用をかけない。

募集方法：特定の企業に偏らないよう君津技能開発センター側で企業に対して広報を行い、受講意志のある企業を職業訓練研修研究センター側と共同で訪問する。この時点で次項のアンケートをお願いする。

④　アンケートについて

対象：「受講生」と「経営者、労務担当者」にそれぞれ個別に行う。

実施時期：「受講生」には、コースの初日と最終日に依頼した。
「経営者、労務担当者」には、コースの前後に訪問し依頼する。

形式等：選択式と記述式。

⑤ 施設訪問

目　　　的 ： 既に開発し、送付済みの基本教材や、開発予定の補助材料に関して、意見交換等を通じて広く指導のノウハウの蓄積を把握することにより本共同研究の成果の向上を計る。

訪 問 施 設 ： ロータス1-2-3の公認トレーナのいる施設が好ましい。

時　　　期 ： 今後調整する。

担 当 者 ： 分担する。

⑥ そ の 他

2　施設訪問調査

既に開発した基本教材及び開発予定の指導マニュアル、補助教材に関する意見交換を通じて、広く関係者のノウハウの蓄積を把握することにより、本研究成果の向上を計る情報を得るため、職業訓練施設等を訪問した。

(1) 訪問施設等の概要

施設名		参加者名	訪問時期	メンバー
石川職業訓練短期大学校		5	平成3年10月～12月	藤井光明
石川技能開発センター		3		宇良田慎二
富山技能開発センター		5		瀧原祥夫
岐阜職業訓練短期大学校		6		熊谷茂雄
新潟雇用促進センター		1		岸本隆臣
新潟技能開発センター		10		
前橋高等技術専門校		2		
埼玉技能開発センター		2		
計	8施設	34人	7日間	5人

なお、意見交換に参加して頂いた方々の出身は以下のとおりである。

指導員	事務職員	管理者	その他
22人	2人	9人	1人

(2) 訪問調査結果の概要

① 調査項目は以下の3点である。

A 共同開発した基本教材「表計算Lotus 1-2-3 初級 基礎編・応用編」に関する意見

B 「補助教材」「指導マニュアル」等について

C 共同開発した教材による当該施設における試行、その他について

② 調査結果は以下のとおりである。

[Aについて]

- テキストとしては、量、レベル共妥当なものである。つまり、親切になりすぎると多くなり、簡単すぎるとわかりにくくなる。
- 全体的に良い出来ばえ。
- いくつかのミスがあったが、かなり良くできている。利用するものとしてありがたい。
- さらに何部か送付して欲しい。
- 専門用語が多い、もっと嚙み砕いた表現にしてはどうか。
- 内容が多くなる反面、重く厚くなるので、全体を減らしてはどうか。
- 「検索」はあるが「抽出」も含めてもよいと思う。
- 利用範囲がのべられているのはよい。
- 施設にあるパソコンの容量が小さいので、テキストを収録するソフトは分割して欲しい。EMSが必要になるので。
- フロッピーとテキストが少しずれている箇所がある。
- 巻末に追録として、語彙の「インデックス」があればよい。
- 最小限の小マクロは入れた方がよい。
- P73の模様は、Lotus社のマニュアルにもテキストにもないがどう調べたのか。
- 視覚的教材がベター。

[Bについて]

- 習得の早さに個人差があるので、「指導マニュアル」で種々の練習問題を準備するなどの工夫が必要である。
- 必ず何割かの受講生はキーボード難があるので、その対応が必要である。

- 平成４年度より、Lotus1−2−3のコースは若年と中高年を別々に行うことにしている。
- マスターコース（高年齢者：58才）を担当した。すぐ忘れる。男性が特にひどい。メモはとるが集中できない。これらの対応が必要である。
- ワープロコースの場合、中間に“演習日”を設定している。個人差による進度の調整ができる。
- 指導マニュアル、補助教材には視聴覚教材を活用して欲しい。
- 受講生ごとに異なるニーズに対しては、指導マニュアルで。

［Cについて］

- 職員に対して当該テキストが利用された。
- Lotus1−2−3の初級コースについての実施状況は、10名程度、中級コースは、16名程度、ともに20才代〜50才である。
- テキスト名に商品名（固有名詞）を出すことは問題とならないか。
- 今後互いに情報交換が大切である。

(3) 訪問調査結果の総括

訪問調査結果の結果をマクロに総括すると、次のように指摘できる。

［Aについて］

- 全体的に良い評価を受けた。
- これまでのイメージを破って例えばマンガ的に表現したほうが良いとの提案があったが、中高年齢者を対象とした職業能力開発セミナーにおいては不適切である。対象が若年者の場合には適切かもしれない。
- 各施設共、細部にわたって非常に丁寧に見て頂いていた。

［Bについて］

- 中高年齢者としての特徴的なハンディーを暖かく受けとめる必要があり。
- やはりこの点における指導のテクニックがポイントであると感じられた。

［Cについて］

- 特に試行の実施について確約を得たわけではないが、追加送付の要望がいくつかあった。
- １施設では解決不可能な問題提起があったが、日頃真剣に取り組んでいる証拠であると受けとめられた。

3　教材の開発

開発した以下の教材の概要を述べる。

① 指導マニュアル　「表計算Lotus1-2-3 指導ポイント集」

② 補助教材 ①　　「表計算Lotus1-2-3 パソコン操作入門編」

③ 補助教材 ②　　「表計算Lotus1-2-3 課題集（課題編／解答編）」

(1) 指導マニュアル 「表計算Lotus1-2-3 指導ポイント集」

① コース担当者に対する指導のノウハウを指導ポイント集としてまとめた初めての試みであり、サンプルとして提供している。

② まったくの初心者を指導する場合でも、少し知識のある方を指導する場合でも1の知識を教えるのに10の知識が必要である。

これが大前提であるが、指導の指針や手引きのようなものがあれば、取り組みやすいであろう。

③ 基本教材は、「誰でも（高齢者も含めて）分かりやすく」という主旨で作成されたものである。そのため詳細の解説や応用例などは省かれている。レベル差に応じて、基本教材の行間を埋めるための補足説明をすることになるが、指導員の裁量に左右される。この基本教材の行間を埋めるのに役立つであろう。

④ このポイント集を活用することによって、指導員による指導内容の差は少なくなるし、より理解を深めることができる。

⑤ 指導員の技量（受講生への指示方法や系統立ててわかりやすく指導できるか、周辺知識を有しているかなど）はセミナーそのものを左右する。

その手助けとなるのではないか。

(2) 補助教材 ① 「表計算Lotus1-2-3 パソコン操作入門編」

① パソコンにあまりなじみの無い受講生のための入門用として使用するものである。

② パソコンの基本構成や機器の名称、キーボードの基本操作、フロッピーディスクの扱い方、日本語入力等、表計算ソフトをパソコン上で操作するときに必要となる基礎知識について述べてある。

③ Lotus1-2-3の基本教材に載っていない基本的なことがらについて役立つものである。

(3) 補助教材 ② 「表計算Lotus 1-2-3 課題集（課題編／解答編）」

① 基本教材に用意されている課題は数が豊富でないため、受講者の理解を深めるための追加課題を提供するものである。

② 入門編の初心者といえども、さまざまな背景を持った人たちが受講するため、その進度に大きく開き生じることは充分起こり得る。このようなときに、進度の遅い受講者をフォローする間、進度の早い（理解度の深い）受講者に与える課題が提供できる。

③ 入門コースといえども初心者以外の受講生もいる。かといってそのためにコースの内容を変更することはできない。このような場合に、基本教材には記載されていない実務上使用価値のある内容を含んだ課題を個別に与えられることにより初心者以外の受講生に考えながら新しいことを習得してもらうことができる。

4 広報とアンケート調査

(1) 広報用資料の作成

コースの試行を行う君津技能開発センターでは、施設としての通常コースは年間計画に従って実施されているが、本共同研究に基づくコースは年度中途における追加コースである。従って広報活動もその主旨に基づいた個別の対応が必要となる。

受講者及び受講者を送り出す立場にある経営者、労務担当者に本研究の主旨を理解して頂く必要から、印刷物を用意することとし、次の2種類の資料を作成した。

「受講のすすめ」

技術革新の進展、労働者の高齢化等の現状に触れ、コース設定の主旨を述べた程度のもので、B5版1枚とした。

巻末に資料No.3として示す。

「講習会のご案内」

箇条書きに、コース名、内容、対象者、実施時期、定員、受講料等を簡潔に述べたもので、B5版1枚とした。

巻末に資料No.3として示す。

(2) 広報活動

企業にとって年度末の多忙な時期の実施であったため、君津地区の新日本製鉄関連企業の組織を通じて事業所訪問による募集を行った。

事業所訪問回数	訪問事業所数	応募事業所数	応　募　者　数
6回	14社	9社	19人

受　講　者　数	男 性	女 性	事 務	現 業
16人	12人	4人	7人	9人

受講者平均年齢	＜45歳	45歳≦	最 高	最 低
48.3歳	7人	9人	62歳	40歳

(3)　アンケート調査用紙の作成

平成元年度に発表した調査研究報告書第53号に述べられたとおり、抽出されたコースイメージに基づいて、具体的にコースを設定することが本研究の最終目標である。実施したコースが初期の目標をどの程度満足したかを知るために、一方は受講生、他方は経営者、労務担当者を対象にそれぞれ選択式と記述式からなるアンケート調査を行うこととした。

巻末に資料No.4としてそれを示す。

選択式の作成方法は、同報告書の第4章「生涯現場の多能工化、職種転換及び職業転換にかかわる教育訓練の構成要素」(別添資料No.1参照）から具体的な設問形式を設定ことから始めた。各設問に対する回答は、程度を表す数値（−2, −1, 0, 1, 2）にコース前は○印で、コース後は×印で回答してもらい、コースの前後における意識の変化がつかめるようにした。各設問とその基となった報告書の箇所との関連は以下のとおりである。なお、経営者、労務担当者を対象とする場合は、コースの前後に直接企業を訪問して協力を依頼することとした。

① 受講生を対象として

A 多能工とのかかわりでの教育訓練

調査研究報告書第53号	アンケート調査の設問
P.28 第1に、多能工化にあたり追加される職種に関する基礎訓練を公共向上訓練として実施することができる。……	A-1 「コンピュータによる表計算の基礎次項については、仕事をする中での習得（OJT）よりも、仕事から離れて習得（OFF JT）することの方が重要である。 A-2 「コンピュータによる表計算Lotus 1−2−3」を使ったことがある。
P.29 第2に、多能工化はある従業員をどのように育てるか、長期的な展望をもった生産現場のリーダの洞察によって計画的に行われるべきであろう…… 本人の気づいていない部分を自覚してもらい、その部分の勉強をする。	A-3 コンピュータに限らず、「自分の不得手な部分」、「得手な部分」が自分でわかっている。
第3に、職場に起きている変化に対して自己自身を変容させ、適応していく心構えを形成する必要がある。	A-4 自分としては、新しく変化していく職場に対して適応していくためのチャレンジ精神がある。

B 企業内での職業転換とのかかわりで教育訓練

調査研究報告書第53号	アンケート調査の設問
P.30 第1に、職種転換、移動への心理的抵抗感をやわらげることが必要である。	B-1 所業転換とか内部移動については心理的に抵抗感がある。
第2に、自分にあうものが何であり、自分の強み、弱みが何かを自覚することが大切である。	B-2 自分にあうものが何であり、自分の強み、弱みが何かを自覚する事が大切である。
第3に、職種転換に際しては、資格をもっていることが有利になる場合がある。	B-3 「コンピュータによる表計算Lotus 1−2−3 」を習得する効用があると思う。
第4に、転職した場合の新しい仕事にかかわる基本的知識、技能を体系的に習得する必要がある。	B-4 中高年齢者は、やさしい仕事を見つけて移動する場合が多い。しかし今後は学習方法次第では一人前の戦力として活躍できるし、そうするべきである。

C　中高年齢者層独特の問題としての教育訓練

調査研究報告書第53号	アンケート調査の設問
P.38 第1に、コンピュータ関連機器に中高年齢者は近寄ろうとしない（コンピュータ・アレルギー）傾向がある。この意識があると職業転換に際しても職域が狭められてしまう。 第2に、コンピュータ・アレルギーがある。	C-1　自分にみコンピュータ・アレルギーがある。
○仕事の目的だけから教育しようとしても拒否反応を示す。個人の自己実現に通じるようにすることが大切である。	C-2　単に仕事の目的のみよりも、一種の遊び的な場面も取り入れるべきだと思う。
○逆に、“仕事上絶対に必要なのだ”と追い込んでいく方法もある。	C-3　逆に、“仕事上絶対に必要なのだ”と強制される事も必要だと思う。
○グループでこの種の学習を進めるようにして、“あいつができるのなら、自分もできるのではないか”という思いを中高年齢者にて持ってもらう方式がある。	C-4　競争ではないのだから、中高年向きの“グループ”による学習によって互いに補助、刺激し会える学習形式がよい。

②　経営者、労務担当者を対象として

調査研究報告書第53号	アンケート調査の設問
P.38 中小企業の経営者の意識改革を目的とした……	A-1a 従業員の能力開発を進めるには、その“体系化”が必要である。（“体系化とは、職種・そのレベル等が系統的にかつ全体的に相互に関連付けて示されること） A-1b その“体系化”はできあがっている。 A-2a 従業員個人々の能力を体系的につかむ必要がある。 A-2b それは既につかんでいる。 A-3a 人造りの雰囲気をどのように創っていくかが必要だ。

調査研究報告書第53号	アンケート調査の設問
	A-3b それは既にできている。 A-4a 特に中高年齢者を活かす職務再設計を進める必要がある。 A-4b それは既に進めている。 A-5a 雇用、能力開発についての情報交換が必要である。 A-5b それは既にできている。

5　コースの実施

(1)　コースの概要

実施回数：2回

第1回目……平成4年1月21日(火)～24日(金)

第2回目……平成4年1月28日(火)～31日(金)

各回の時間：30時間、9時00分～16時30分

担当講師：宇良田 慎二　瀧原 祥夫　八木沢 敏夫

時間割

実施日		内容
1日目 (火)	午前	パソコン操作編 ○パソコンの基本構成 ○フロッピーディスクの基礎知識 ○システムの立ち上げ（起動） ○キーボード基本編 ○入力した文字の挿入・削除・訂正 日本語入力編 ○松茸V2による日本語入力 日本語を入力するための方法 日本語を入力する場合に良く使用するキー 日本語入力、漢字変換に必要なキー操作について 日本語入力操作例

実施日		内容
		基本教材 ○ロータス1−2−3の特徴と機能（紹介） ○ロータスの起動と終了 ○ワークシートの基礎知識 ○セルポインタの移動 ○コマンドの選び方 ○データ入力の基礎 《練習問題》
	午後	○ワークシートを保存する ○ワークシート画面の消去 《練習問題》 ○ファイルの呼出し ○合計を計算する（関数の利用）
2日目 （水）	午前	○表の作成と印刷
	午後	《練習問題》
3日目 （木）	午前	《練習問題》
	午後	○印　刷 《練習問題》
4日目 （金）	午前	○グラフで見る 基本となるグラフの作成 グラフを印刷する 《練習問題》
	午後	○データベース機能 並べ替え（ソート） 検　索 抽　出 《練習問題》 《総合練習問題》

(2) アンケート調査結果

① 受講生を対象として

A　多能工とのかかわりでの教育訓練

設問	○・×の度数						○←→×の変化度						＋側 （－側） （%）
	印	-2	-1	0	1	2	-2	-1	0	1	2	3	
A-1	○		3	9	2	2	2	1	4	8	1		56.0
	×	2	1	3	7	3							(6.2)
A-2	○	6	5	2	3			1	7	2	4	2	50.0
	×	3	1	5	6	1							(6.2)
A-3	○			9	6	1		1	9	5	1		37.5
	×			4	10	2							(6.2)
A-4	○			2	12	2		1	11	4			25.0
	×		1	1	8	6							(6.2)
計	○	6	8	22	23	5	2	4	31	19	6	2	42.2
	×	5	3	13	31	12							(9.4)

［設　問］

A−1　「コンピュータによる表計算の基礎事項については、仕事をする中での習得（OJT）よりも、仕事から離れて習得（OFF JT）することの方が重要である。

A−2　「コンピュータによる表計算Lotus1-2-3」を使ったことがある。

A−3　コンピュータに限らず、「自分の不得手な部分」、「得手の部分」が自分でわかっている。

A−4　自分としては、新しく変化していく職場に対して適応していくためのチャレンジ精神がある。

［分析と検討］

- A−1の－側の変化13%が突出しているが、受講しにくい時期であったためと受け取られる。
- A−1の＋側が高いことは、OFF JTの方にメリットがあると理解されていることがいえる。公共訓練としての関わりが考慮される。
- A−2の○・×の度数の内、○(受講前の解答)の－側が合計11（約70%）あるが、次項のB－1を関連づけると謙遜した解答と見られる。
- A−2の＋側が高いことは、本コースが十分な経験としても価値があったと受け取れる。

● A－3の＋側37.5％の意味は、受講者の得手不得手な部分の理解に役だったといえる。

● A－4で変化度－1が1名あり気になるが、40才の女性でまだ若く、記述蘭に述べられているように、“収入が安定している現状ら未知の業種に飛び込んでいくことは困難である”との意見は理解できる。

B　企業内での職業転換とのかかわりでの教育訓練

設問	○・×の度数						○⟷×の変化度						＋側（－側）(％)
	印	-2	-1	0	1	2	-2	-1	0	1	2	3	
B-1	○	2	1	10	3			2	9	5			31.3
	×	2	3	3	8								(12.5)
B-2	○			6	6	4			10	6			37.5
	×			3	6	7							(　0)
B-3	○			8	5	3			5	8	3		68.8
	×			1	5	10							(　0)
B-4	○			4	6	6			9	6	1		43.8
	×				6	10							(　0)
計	○	2	1	28	20	13		2	33	25	4		45.3
	×	2	3	7	25	27							(3.1)

［設　問］

B－1　職業転換とか内部移動については心理的に抵抗感がある。

B－2　自分にあうものが何であり、自分の強み、弱みが何かを自覚する事が大切である。

B－3　「コンピュータによる表計算Lotus1-2-3」を習得する効果があると思う。

B－4　中高年齢者は、やさしい仕事を見つけて移動する場合が多い。しかし今後は学習方法次第では一人前の戦力として活躍できるし、そうするべきである。

［分析と検討］

● B-1の－側の変化度12.5％が突出している。これは本コースによって“職業転換、移動への心理的抵抗感”がやわらいだと受け取った受講生の度合いである。これをコースの効果があったとみれば多いかも知れない。

● B-2、B-3、B-4の結果からいえることは、一様に設問に肯定的である。特にB-4の設問に対する解答は、“中高年といえども一人前の戦力として活躍すべき”との意思表示である。

C　中高年齢者層独特の問題としての教育訓練

設問	○・×の度数						○←→×の変化度						＋側（－側）(%)
	印	-2	-1	0	1	2	-2	-1	0	1	2	3	
C−1	○	3	3	6	4			4	8	3		1	25.0
	×	2	4	5	5								(25.0)
C−2	○		2	7	6	1			11	5			31.3
	×		2	2	11	1							(　0)
C−3	○		1	9	6			2	5	9			56.3
	×		1	3	11	1							(12.5)
C−4	○	1		6	7	2			10	5	1		37.5
	×	1		2	8	5							(　0)
計	○	4	6	28	23	3		6	34	22	1	1	37.5
	×	3	7	12	35	7							(37.5)

［設　問］

C−1　自分にはコンピュータ・アレルギーがある。

C−2　単に仕事の目的のみよりも、一種の遊び的な場面も取り入れるべきだと思う。

C−3　逆に、“仕事上絶対に必要なのだ”と強制される事も必要だと思う。

C−4　競争ではないのだから、中高年向きの“グループ”による学習によって互いに補助、刺激し合える学習形式がよい。

［分析と検討］

●C−1については、既に存在するコンピュータ・アレルギーは簡単には取り除けないということであろうか。○←→×の変化度－1の4が気になるが、表計算ソフトの機能が多いため短期間での習得には限度があるとの意思表示とも受け取れる。

●C−2、C−3の結果は、共に設問のとおり、遊び的な場面を取り入れることが求められていると同時に、仕事上必要なのだと強制されることは当然であるとの意思表示である。

●C−4は○・×の度数の内、－2の解答が共に1あり、これは事務職、54才の男性である。他の設問の解答を見ると、例えばこれまでのコンピュータ経験は－2、職種転換とか内部移動への抵抗感は－2、コンピュータアレルギーは－2……のごとく、他の受講者と比較して特に自立心が強いといえる。

A, B, C 全体

設問	○・×の度数						○←→×の変化度						＋側 (－側) (%)
	印	-2	-1	0	1	2	-2	-1	0	1	2	3	
総計	○	12	15	78	66	21	2	12	98	66	11	3	41.7
	×	8	13	32	91	46							(7.3)

記述式にみられる意見の集約は以下のとおりである。

a　コース内容について

- 今回受講したロータス1-2-3は仕事の能率化にとって不可欠のものであると思い受講した。やはりそのような内容だった。
- 我流で覚えているのでこの講習で基本を身につけて良い勉強になった。
- 機器を購入したので、待ち望んでいたコースだった。

b　指導について

- 分かりやすく親切に説明してもらった。
- テキストが非常に分かりやすく、仕事中は常に横に置き参考にしている。
- 受講者の身になって作成されている。
- 先生の人柄が良く、気持ち良く学習ができた。
- 頭で理解できても手が動かずパニックになったこともあったが、慣れれば今後やれそうな気がした。若い時期に触れるチャンスがあればと思った。

c　実施時期、期間について

- 零細企業にとっては昼間の4日間は難しい。
- 土、日あるいは夜間ならよい。
- 午後1時から3日間ではどうか。
- 時期的にかなり無理な時期であった。

d　仕事との関係で

- 専門の経験、知識は豊富であるがＯＡの波には乗りづらい。
- 機器を導入したので今後は活用できる。
- 極端な職種転換には抵抗があるが必要に応じての能力開発のためであれば生き甲斐となる。
- これまでやってきた仕事での転換には抵抗はないが、まったく仕事の内容が変わ

るのには抵抗がある。

- 永年培ってきた熟練者としての知識、技能を活かすためには第一線で永く活躍したいが、体力的にも危険と考えられる場合も多くあるため、配置転換もやむを得ないことと考える。
- 永年の蓄積を次世代に引き継ぐことも重要である。

e　その他

- 職種転換については住居の問題が更に重要だと思う。
- 新しい未知の職業に飛び込んで行くわけだから収入のダウンも考慮すると職業をかえることは困難と思う。
- 最も重要な点は本人の能力だから、新しい分野の技術を習得するために常にこのような機会で学習することが必要だ。
- 永年の企業戦士としての疲労の蓄積を癒すと共に、職業転換に際して企業は今後の生き方を優しく方向付けてくれる配慮をして欲しい。
- 従来の仕事が世間一般には役立たない場合が多々あるが、職業を転換してもそこに新たな生き甲斐が感じられなければならない。
- 受講料が安いのでありがたい。

② 経営者、労務担当者を対象として

既に述べたとおり、我々の最善の努力により開発したコースであったが、企業側にとっては受講がかなり困難な時期となった。当初、受講対象者を生産技能者（現業部門）とする意図があったが、管理職4名の方が直々に受講されるといった状態で、むしろ本共同研究に協力して頂いたことに恐縮している。コース実施の10日余り経過した時点で、従業員の受講を勧めて頂いたことに対するお礼と、事前にお願いしておいたアンケート調査用紙の回収を兼ねて再度事業所を訪問したが、多忙のため直接面会できないケースも多々あり、アンケート調査用紙の回収は断念せざるを得なかった。

しかし、部分的とはいえ面会できた中から要望等を集約し、以下にこれを述べる。

Ni社

- ハードを購入したばかりでタイミングがよかった。現在は担当者が奪い合っている。
- 慣れた同僚からOJTで教わったが、うまく使えなかった。
- 当社は創立35年で、18歳採用者はまだ定年に達していないので、たとえ職業転換

の必要性があっても少数のため全体の中に埋まってしまって、特に問題とはならない。

- これからはトレーサを担当する女性でも専門知識が必要となる。昇格試験もあるので男性と同等に活躍できる女性は同等に扱うようにしたい。
- 純粋なOFF JTではないが、17時から2時間の勉強会を考えている。

To社

- 先日のコースは忙しい時期だったため、直前までコースに参加できるかどうか不明だった。
- 夜勤の無い常駐職場なので夜間コースならよかった。
- 昼間4日間は正直いってきつかった。
- パソコンは親会社のものが毎日の実績報告管理用として入っていて、ベテランを1名派遣してもらい、彼を先生として内部で講習を行っている。
- 息子とその父親を一緒に採用すると、別居生活の負担もなく、父親として安心してもらえる。職業転換がスムーズに運ぶ大きな要素である。

Yo社

- 今回は多忙だったので管理職に受講させたが、4日間は長かった。
- 彼のところには今回のソフトがあるので役だった。

Se社

- 今回は管理職が受講した。
- 経験はあったが、目的意識がはっきりしていたので大いに役だった。
- 昨年は社内でパソコン研修を実施した。内容はランプランで、パソコン2台で半日交代とした。ランファイル、ラングラフも考えている。